

十和田市の子どもたちの学力と生活

～令和5年度全国学力・学習状況調査の結果概要から～

令和5年8月23日
十和田市教育委員会

1 調査の目的

本調査は、教育施策の成果と課題を分析し、その改善を図ることや教育指導や学習状況の改善・充実等を目的としています。

本市では、市の児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証することで、施策の見直しと改善を図るとともに、各学校が、児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てるために本調査に参加しています。

2 調査の対象及び内容

- (1) 対象学年と実施した学校数・児童生徒数（当該学年の全児童生徒対象）

	市立学校数	実施した学校数	実施した児童生徒数
小学校第6学年	14校	14校	416人
中学校第3学年	8校	8校	428人

- (2) 児童生徒に関する調査の内容

① 教科に関する調査

ア 国語、算数・数学、英語

(ア) 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等に関する内容

(イ) 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関する内容

調査問題は、上記(ア)と(イ)を一体的に問う内容となっている。

② 質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する内容

3 調査日

- ① 令和5年4月18日（火）

〈小学校〉国語・算数 〈中学校〉国語・数学・英語（「話すこと」以外）

- ② 令和5年4月18日（火）～5月26日（金）

〈中学校〉英語「話すこと」調査

- ③ 令和5年4月10日（月）～5月16日（火）

児童生徒質問紙調査

4 調査結果の概要

(1) 教科に関する調査

国語、算数・数学及び英語について、本市の状況をお知らせします。

なお、文章内の表記については、本市の数値を全国と県の平均正答率と比較した時に、0～±1.0%未満では「同程度」、±1.0%以上では「上回っています」「下回っています」などの表現を用いています。

① 国語

ア 小学校

全国平均及び県平均を上回っています。

イ 中学校

全国平均及び県平均を上回っています。

設問別にみると、以下の設問で全国平均及び県平均を下回っています。

【全国平均、県平均ともに下回る設問の趣旨】

- ・読み手の立場に立って、叙述の仕方などを確かめて、文章を整える。
- ・文脈に即して漢字を正しく書く（おし量って）。

【全国平均を下回る設問の趣旨】

- ・観点を明確にして文章を比較し、表現の効果について考える。

② 算数・数学

ア 小学校

全国平均及び県平均を上回っています。

イ 中学校

全国平均を下回り、県平均と同程度です。

設問別にみると、以下の設問で全国平均及び県平均を下回っています。

【全国平均、県平均ともに下回る設問の趣旨】

- ・自然数の意味を理解している。
- ・空間における平面が同一直線上にない3点で決定されていることを理解している。
- ・反比例の意味を理解している。
- ・四分位範囲の意味を理解している。
- ・ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明することができる。
- ・条件を変えた場合に事柄が成り立たなくなった理由を、証明を振り返って読み取ることができる。

【全国平均を下回る設問の趣旨】

- ・累積度数の意味を理解している。
- ・目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができる。
- ・結論が成り立つための前提を、問題解決の過程や結果を振り返って考え、成り立つ事柄を見いだし、説明することができる。

- ・与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができる。
- ・事象を理想化・単純化することで表された直線のグラフを、事象に即して解釈することができる。

③ 英語

ア 中学校

全国平均を下回り、県平均と同程度です。

設問別にみると、以下の設問で全国平均及び県平均を下回っています。

【全国平均、県平均ともに下回る設問の趣旨】

- ・情報を正確に聞き取ることができる。
- ・日常的な話題について、目的に応じて英語を聞き、必要な情報を聞き取ることができる。
- ・日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を読み取ることができる。
- ・文と文との関係を正確に読み取ることができる。
- ・日常的な話題について、短い文章の概要をとらえることができる。
- ・社会的な話題に関して読んだことについて、考えとその理由を書くことができる。
- ・未来表現 (be going to) の肯定文を正確に書くことができる。
- ・疑問詞を用いた一般動詞の2人称単数過去形の疑問文を正確に書くことができる。

【全国平均を下回る設問の趣旨】

- ・情報を正確に聞き取ることができる。
- ・日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を聞き取ることができる。
- ・情報を正確に読み取ることができる。
- ・社会的な話題について、短い文章の要点を捉えることができる。
- ・「相手の行動を促す」という言語の働きを理解し、依頼する表現を正確に書くことができる。

(2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査（児童生徒に対する調査）

児童生徒の主に生活の諸側面についての結果を、全国平均及び県平均と比較しながらお知らせします。参考として令和4年度の状況を（ ）内に示しています。

なお、文章内の表記については、本市の数値を全国と県の平均値及び令和4年度の状況と比較した時に、0～±2.5%未満では「ほぼ同じ」、±2.5%～±5.0%未満では「やや多く」「やや少なく」など、±5.0%以上では「多い」「少ない」などの表現を用いています。

① 朝食

朝食を毎日食べている小学生は全国及び県よりやや多く、中学生は全国及び県とほぼ同じ状況です。令和4年度と比較すると、小学生はやや少なく、中学生はほぼ同じです。

項目	小学生	中学生
○朝食を毎日食べている。	87.4% (90.8%)	80.7% (82.0%)

② 読書

普段1日当たり30分以上読書（電子書籍の読書も含む。教科書や参考書、漫画や雑

誌を除く)している小学生は全国及び県とほぼ同じ状況で、中学生は全国よりやや多く県とほぼ同じ状況です。令和4年度と比較すると、小学生はやや多く、中学生はほぼ同じ状況です。

項目	小学生	中学生
○学校の授業時間以外に、普段1日当たり30分以上読書している。	39.0% (36.3%)	30.9% (28.8%)

③ 家庭学習

普段1日当たり1時間以上勉強(学習塾や家庭教師等の時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)している小学生は全国よりやや多く県とほぼ同じで、中学生は全国より少なく県とほぼ同じ状況です。令和4年度と比較すると、小学生及び中学生ともにやや多くなっています。

項目	小学生	中学生
○学校の授業時間以外に、普段1日当たり1時間以上勉強している。	61.6% (56.9%)	55.6% (51.7%)

④ 新聞

新聞を読んでいる(ほぼ毎日、週に1~3回程度、月1~3回程度)小学生及び中学生は全国及び県より多い状況です。令和4年度と比較すると、小学生はやや多く、中学生は同じくらいです。

項目	小学生	中学生
○月1~3回以上新聞を読んでいる。	46.2% (41.7%)	32.6% (31.4%)

⑤ 地域の行事

地域の行事に参加している小学生は全国よりやや少なく県とほぼ同じで、中学生は全国及び県よりやや少ない状況です。令和4年度と比較すると、小学生及び中学生ともに多くなっています。

項目	小学生	中学生
○今住んでいる地域の行事に参加している。(どちらかと言えば参加しているを含む)	54.5% (47.9%)	35.6% (32.7%)

⑥ 自分のよさ

自分にはよいところがあると思っている小学生は全国及び県より多く、中学生は全国よりやや多く県とほぼ同じ状況です。令和4年度と比較すると、小学生及び中学生ともにやや多くなっています。

項目	小学生	中学生
○自分にはよいところがあると思っている。(どちらかと言えば思っているを含む)	92.1% (87.7%)	83.4% (79.5%)

⑦ 将来の夢等

将来の夢や目標を持っている小学生及び中学生は、全国より多く県よりやや多い状況です。令和4年度と比較すると、小学生はやや多く、中学生はやや少なくなっています。

人の役に立つ人間になりたいと思っている小学生及び中学生は、全国及び県とほぼ同じ状況です。令和4年度と比較すると、小学校及び中学校ともにほぼ同じです。

項目	小学生	中学生
○将来の夢や目標を持っている。(どちらかと言えば持っているを含む)	89.5% (87.6%)	74.6% (78.8%)
○人の役に立つ人間になりたいと思う。(どちらかと言えば思うを含む)	96.5% (96.4%)	95.5% (94.9%)

⑧ 授業の理解

国語の授業内容を理解している小学生は全国よりやや多く県とほぼ同じで、中学生は全国及び県とほぼ同じ状況です。令和4年度と比較すると、小学生及び中学生ともにほぼ同じです。

算数・数学の授業内容を理解している小学生は全国及び県よりやや少なく、中学生は全国及び県より多い状況です。令和4年度と比較すると、小学生はやや少なく、中学生は多くなっています。

英語の授業内容を理解している中学生は、全国とほぼ同じで県よりやや少ない状況です。令和元年度と比較すると、中学生はやや少なくなっています。

項目	小学生	中学生
○国語の授業の内容がよく分かる。(どちらかと言えば分かるを含む)	89.2% (87.2%)	81.6% (82.3%)
○算数・数学の授業の内容がよく分かる。(どちらかと言えば分かるを含む)	77.8% (80.8%)	78.6% (66.1%)
○英語の授業の内容がよく分かる。(どちらかと言えば分かるを含む)		63.5% (66%)

⑨ 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善

課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいると思っている小学生は全国よりやや多く県とほぼ同じで、中学生は全国及び県とほぼ同じ状況です。令和4年度と比較すると、小学生はやや多く、中学生は多いです。

話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思っている小学生は全国及び県とほぼ同じで、中学生は全国より多く県よりやや多い状況です。令和4年度と比較すると、小学生はほぼ同じで、中学生は多くなっています。

項目	小学生	中学生
○課題の解決に向け、自分で考え、自分から取り組んでいると思う。(どちらかと言えば思うを含む)	83.4% (78.7%)	81.6% (74.2%)
○話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う。(どちらかと言えば思うを含む)	83.4% (83.3%)	85.1% (75.5%)

⑩ ICT機器の使用

授業で、PC・タブレットなどのICT機器をほぼ毎日使用している小学生は全国及び県より少なく、中学生は全国より少なく県よりやや少ない状況です。令和4年度と比較すると、小学生は少なく、中学生はやや多くなっています。

項目	小学生	中学生
○授業でほぼ毎日PC・タブレットなどのICT機器を使用している。	14.5% (18.9%)	22.6% (18.0%)

5 今後の対応

(1) 教科に関する調査

教科に関する調査について、小学校では、国語及び算数において全国平均及び県平均を上回る結果になりました。中学校では、国語は全国平均及び県平均を上回り、数学は全国平均を下回り県平均と同程度で、英語は全国平均を下回り県平均と同程度の結果となりました。

これまで、市立各小・中学校においては、基礎的・基本的な知識及び技能の定着を重視するとともに、思考力・判断力・表現力等の育成を図るための教育活動を継続的に実施してきました。

特に、小学校における国語及び算数と中学校における国語及び数学の「思考・判断・表現」の結果から、児童生徒の思考力・判断力・表現力等の育成に力を入れて指導してきたことがうかがわれます。また、質問紙調査における授業理解に関する結果や主体的・対話的で深い学びの視点における授業改善の結果から、日常的に充実した授業が行われていることもうかがえます。

しかし、小・中学校ともに、全国・県ともに正答率が低く本市の児童生徒においても低くなっている問題や、全国・県に比べて低い正答率となっている問題があり、更なる向上のために、改めて各教科における指導方法の改善が望まれます。

市教育委員会では、特に学力の向上について、他の調査結果（県学習状況調査、C R T等）と併せて、実態と課題を明確にし、具体的な指導の手立てやI C Tの効果的な活用法等を学校に提供していくとともに、授業の理解度と学習内容の定着を高めるため、引き続き次の点を重点として取り組んでいきます。

「授業の充実」に向けて

- ◇ 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善
 - ※ 「とわだの学び」を基にした実践
- ◇ 教材研究の深化と指導方法の工夫及び言語活動の充実
- ◇ 個に応じた指導の充実
- ◇ 指導と評価の一体化の推進
- ◇ 学習環境づくりと学習習慣の確立

(2) 質問紙調査

児童生徒の生活の諸側面に関する調査では、概ね令和4年度同様に、全国・県の実態とほぼ同じような生活習慣や生活リズムで日々の生活を送っており、自己肯定感や夢・目標をもち学校生活を送っていることがうかがえます。

このことは、市立各小・中学校において、自校の調査結果の分析と考察を的確に行い、文部科学省の報告書や他の調査結果等を参考にしながら、学校での教育活動はもとより、地域・家庭と連携した児童生徒の健やかな成長を育む取組の成果だと思われれます。

市教育委員会は、今後も、児童生徒が望ましい生活習慣や生活リズム等を身に付け、夢・希望・志の実現に向け、健やかに成長できることを願い、地域・家庭と連携しながら教育活動の一層の充実に取り組んでいけるよう、学校を支援していきます。